

令和5年度 学校評価 自己評価（職員用）

各評価項目について、下記の4段階の評価基準を参考に、評価欄に数値を記入する。

<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">4：十分達成できている</p> <ul style="list-style-type: none"> • 目標に対して具体的方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態 • 具体的方策を実施中であり、漸次その結果を検証しつつある状態 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">3：おおむね達成できている</p> <ul style="list-style-type: none"> • 改善に向けて共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある状態 • 改善の必要性に対して理解があり、具体的方策に対して取り組もうとしている状態 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">2：どちらかという達成できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 改善の方向性は持っているが、共通理解が十分ではなく全体として停滞が目につく状態 • 改善の方向性を探っている状態 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">1：ほとんど達成できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 問題意識をもっているが、手つかずの状態 • 現状に満足し、問題意識にまで考えが及んでいない状態
---	---

評価項目	評価の観点	目 標	番号	具体的方策	評価欄
1 学校経営					
(1) 学校経営	教育目標、経営方針、本年度の努力目標の設定とその具現化に向けた取組	児童生徒や学校、地域の実情を踏まえて、経営方針等を設定し、教職員及び保護者との共通理解の下、その具現化を図る。	1	学校は、前年度の学校評価及び学校等の実情を踏まえた上で、学校経営の方針や努力目標を適切に設定している。	
			2	学校は、本年度の経営方針や努力目標を、自校職員や保護者、関係機関と共有している。	
			3	学校は、本年度の経営方針や努力目標を適切に評価し、改善・解決につなげている。	
(2) 学部経営	各学部目標の設定とその具現化に向けた取組	学校経営方針等に基づき、各学部の目標を設定し、その具現化を図る。	4	学校は、各学部の目標等に関して、学期ごとに評価や反省を行いながら、改善・解決につなげている。	

(3) 学級経営	学級経営目標の設定とその具現化に向けた取組	学部経営方針等に基づき、学級経営案を立案し、その具現化を図る。	5	学校は、学級担任が学校・学部経営方針等を踏まえて、学級経営案を担任間で協議して作成し、それに基づく学級経営を適切に行っている。	
2 教育活動					
(1) 教育課程の編成	児童生徒の実態等に 応じた適切な教育課程の編成	児童生徒一人一人の「生きる力」を育むことを目指した教育課程を編成する。	6	学校は、児童生徒一人一人の「生きる力」を育むに当たり、学部段階間をつなぐ視点である「身につけてほしい力」を意識して教育課程を編成するとともに、そこでの教育の内容を定期的に点検している。	
(2) 各教科	教科指導等の充実	児童生徒の実態に応じて教科指導等の充実を図る。	7	学校は、児童生徒の実態に応じて、教科指導等の充実を図っている。	
(3) 特別の教科道徳	道徳教育の充実	豊かな道徳的諸価値についての理解を基に、道徳性を養う。	8	学校は、生命の大切さや思いやり、信頼の心など、豊かな人間性や社会性を養うことに努めている。	
(4) 特別活動	各活動・学校行事の充実	児童生徒の実態に応じた内容を踏まえて、各活動・行事を計画・実施する。	9	学校は、各活動・学校行事における活動のねらいを明確に設定した上で指導を行っている。	
			10	学校は、児童生徒の実態に応じて、自主的、実践的に取り組むことができるように活動内容を工夫している。	
			11	学校は、前年度の反省を生かして、各活動・学校行事における日程や場所、活動内容等を検討している。	
	交流及び共同学習の充実	交流相手校の理解と協力を得て、相互理解を深める学習を行う。	12	学校は、交流先となる地域の小・中学校や高等学校の担当者と連携し、児童生徒の相互理解が深まるような交流及び共同学習に取り組んでいる。(間接交流を含む)	
	(5) 総合的な学習(探究)の時間	総合的な学習(探究)の時間の指導の充実	児童生徒の実態等に応じて目標及び内容を設定し学習を行う。	13	学校は、児童生徒の実態等に応じて適切に目標及び内容を設定し、総合的な学習(探究)の時間に取り組んでいる。(実施している学年のみ評価する)
(6) 自立活動	自立活動の指導の充実	障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、社会参加する資質を育成する。	14	学校は、児童生徒一人一人の障害の状態や程度、発達の段階を、発達検査やチェックリスト等により的確に把握するよう努めている。	
			15	学校は、児童生徒の指導に関わる担任、自立活動専任、学習グループ担当者が、適宜情報交換等を行いながら指導を進めている。	

(7) 指導計画	年間指導計画と個別の指導計画との関連と活用に関する取組	個別の指導計画の有効活用を図る。	16	学校は、年間指導計画に基づいて、児童生徒一人一人の個別の指導計画を作成し、その計画に基づき、授業を行っている。	
(8) 授業改善	計画(Plan)-実践(Do)-評価(Check)-改善(Action)のサイクルがわかりやすい授業づくり	個別の指導計画等に基づく授業実践のP-D-C-Aサイクルがわかりやすい授業づくりを行う。	17	学校は、児童生徒一人一人の個別の指導計画に基づいて、担任(担当者)間で、集団学習や個別学習における授業計画や授業評価、授業改善を行い、わかりやすい授業づくりに努めている。	
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	児童生徒の実態に応じて教材の作成や精選、教具の活用を行う。	18	学校は、児童生徒の実態や興味・関心に応じて、教材を作成したり、教育機器等を活用したりするなどして、児童生徒に見通しをもたせたり、自己選択・自己決定を促したり、表現するための指導方法を工夫している。	
	体験的な学習の設定と充実	児童生徒の実態に応じて体験的な学習の充実を図る。	19	学校は、地域の資源を有効に活用し、学校内外での体験学習等を計画的に実施している。	
	適切な学習評価	担当教員間の共通理解のもと適切な評価を行う。	20	学校は、担当教員間で事前に共通理解を図った上で、適切に学習評価を行っている。	
(9) キャリア教育	キャリア教育の充実	児童生徒のニーズに応じたキャリア教育を行う。	21	学校は、児童生徒の高等部卒業後の姿を想定して、計画的にキャリア教育を行っている。	
(10) 進路指導	進路の情報提供及び関係機関との連携	個別の教育支援計画の作成と活用により、医療や福祉等の関係機関との連携を深める。	22	学校は、児童生徒や保護者に進路に関する情報を提供したり、個別の教育支援計画を有効に活用し、児童生徒や保護者の進路に関する願いを踏まえ、関係機関の理解と協力を得ながら組織的かつ計画的な進路指導を行っている。	
(11) 生涯学習	生涯学習への意欲の向上への取組の充実	学校図書館や地域の劇場等の施設の利活用を図り、生涯学習への意欲を高める。	23	学校は、スポーツ活動や文化活動などを含め、児童生徒が、自己実現を図るための生涯にわたる学習活動全般を楽しむことができるよう、各種施設を利用したり、多様なスポーツや文化芸術活動を体験したりすることができるよう工夫している。	
(12) 人権教育	豊かな人権感覚の醸成	人権意識の向上に努める。	24	学校は、豊かな人権感覚を養うために、人権教育に関する校内研修を実施し、指導に生かしている。	
(13) 食育	食育の推進と個に応じた食事指導の充実	生きる力につながる食育と食に関する力を高める。	25	学校は、食育に関する指導の充実及び児童生徒一人一人の食機能に応じた食形態の工夫や安全な食具等の活用を図っている。	

3 組織運営					
(1) 校務分掌	校務遂行にかかる適切な役割分担	分掌部相互の連携を図りながら校務を円滑に行う。	26	学校は、各分掌部の業務分担を明確にし、必要な校務を円滑に処理している。	
			27	学校は、各分掌部の業務等の記録を適切にまとめたり、学期毎に評価や反省を行ったりするなど、改善・充実に努めている。	
(2) 各種委員会	校務遂行に必要な委員会の設置	必要な委員会組織により課題の改善・解決を図る。	28	学校は、各種委員会の中で、学校が抱える諸課題の改善・解決に努めている。	
(3) 職員研修	教職員の資質及び専門性の向上	特別支援教育に関する専門性の向上を図る。	29	学校は、校内での研修会や事例検討会、授業研究等を進んで計画し、教育実践に役立てている。	
			30	学校は、教育・医療・福祉等、外部の専門家による研修会を実施し、専門性を高めている。	
(4) 職場環境	日常業務の点検	働きやすい職場環境づくりを推進する。	31	学校は、働きやすい職場環境づくりの一つとして、週1回のノー会議デー、ノー残業デーを設定している。	
			32	学校は、「プラス1推進運動」の一つとして、各種会議等の見直しや点検を行っている。(1~2回)	
4 教育環境					
(1) 教育環境の整備	健康や安全面に関わる環境整備	衛生的かつ潤いのある生活環境整備に努める。	33	学校は、校舎内外の整理整頓及び定期的な清掃等により、衛生的で安全な学校環境を維持している。	
			34	学校は、教室の採光(照度)や室温調整、必要な設備や掲示物等、学習に最適な教室環境を整備している。	
		児童生徒の安全及び健康管理を徹底する。	35	学校は、ヒヤリハット事例の共有や緊急時の対応マニュアルにより、児童生徒の健康管理や安全管理について共通理解を図っている。	
			36	学校は、緊急搬送や災害避難等の訓練を通して、日頃から児童生徒の非常時の安全確保を意識した活動を行っている。	
			37	学校は、保護者や関係機関との連携の下、安心・安全な医療的ケアの実施に努めている。	
			38	学校は、感染症等が発生したときの校内及び関係先への連絡体制等適切な対策を講じている。	
(2) 施設設備の管理	有効活用と安全管理		39	学校は、安全確保のために、定期的に安全点検や必要な補修等を行っている。	

		施設設備の有効活用を図り、安全点検等、適切に管理を行う。	40	学校は、施設設備（備品）を常に整理整頓し、日々の教育活動に支障なく活用できるようにしている。	
(3)情報インフラの整備・充実	教育活動の情報化	情報機器の適切な活用に努める。	41	学校は、児童生徒の実態に応じて情報機器の利用ができるように整備している。	
			42	学校は、NEWSポータルサイトや校内LAN、Teamsを有効に活用して校務処理や校内研修を行っている。	
			43	学校は、情報モラル等に関する研修を行うとともに個人情報の保護に努めている。	
5 地域や社会に開かれた学校づくり					
(1)保護者や病棟との連携	相互理解の充実	保護者や病棟の理解と協力を得る。	44	学校は、各活動・学校行事等を計画・実施する際に、保護者や病棟の理解と協力を得るため、事前の説明や相談を丁寧に行っている。	
		保護者が学校に訪れる機会を計画するとともに学習等の様子を知らせ、児童生徒の成長を共有する。	45	学校は、保護者懇談会、授業参観、学校行事、PTA活動を計画し、保護者に参加を呼びかけている。	
			46	学校は、連絡帳や各種通信、家庭訪問などを通して、児童生徒の成長等に関する情報を提供している。	
			47	学校は、保護者からの相談に誠実に応じている。	
(2)地域との連携	地域支援の充実	特別支援学校として、センター的役割を担う。	48	学校は、幼稚園・保育所・小・中・高等学校への相談支援や研修会への呼びかけ等を行っている。	
	本校教育活動の理解・啓発	広く地域や関係機関に、本校のことを知ってもらう。	49	学校は、学校説明会や学校公開を実施している。	
			50	学校は、ホームページを定期的に更新したり、報道機関、学校便り等を活用したり広報活動を行っている。	

※ 評価を2以下とした項目については、その理由を具体的にお書きください。